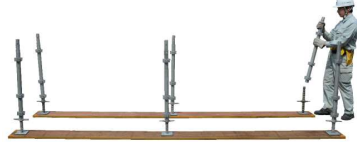


●組立手順

1 層目



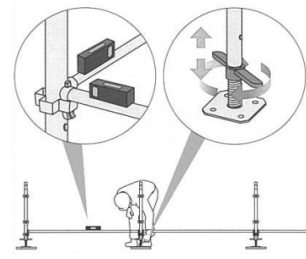
敷板・ジャッキの配置
手すりを並べて、スパン割を行い、ジャッキを配置します。



根がらみ支柱の取付
根がらみ支柱 (SPS-085N) を取付けます。



根がらみ取付
スパンに応じた手すりを支柱下部のポケットに取付けます。



水平の確認
ジャッキを調整し高さを揃えます。



上部支柱の取付
根がらみ支柱に差し込みます。
*支柱ロックを確認して下さい。

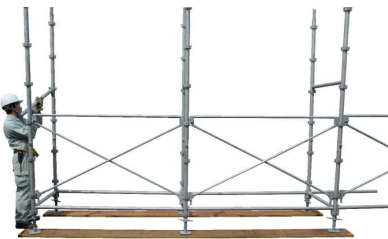


ロック 解除



先行手すりの取付
全スパンに専用先行手すりを設置します。
*取付できない場合には、3スパンに1ヶ所以上のプレスで対応します。

2 層目



腕木の取付
腕木・・・鋼製布板を掛ける手すり材。



先行手すりの取付



鋼製布板・階段枠・階段手すりの取付
鋼製布板のつかみ金具の外れ止めロックを確認して下さい。



手すりの取付
前踏み側に手すりを二段取付けます。
墜落制止用器具を先行手すりに取付けて作業して下さい。

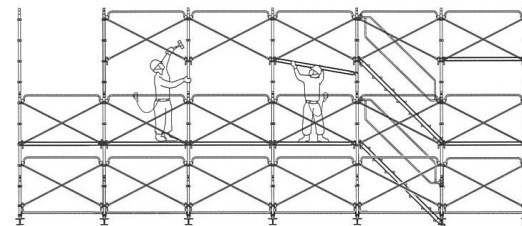
●使用部材

品名	品番	サイズ (mm)	重量 (kg)
支柱	SPA-36	3600	11.3
	SPA-27	2700	10.2
	SPA-18	1800	6.9
	SPA-135	1350	5.6
	SPA-09	900	3.7
	SPA-045	450	2.1
	SPA-0225	225	1.4
頭切り支柱	SPA-09U	870	3.7
根がらみ支柱	SPA-085N	850	3.8
カラー材	SPA-015C	150	0.4
手すり	SPC-1829	1829	4.7
	SPC-1524	1524	4.0
	SPC-1219	1219	3.3
	SPC-914	914	2.7
	SPC-610	610	2.0
	SPC-305	305	1.3
先行手すり	SPX-1829	1829	7.7
	SPX-1524	1524	6.8
	SPX-1219	1219	6.0
	SPX-914	914	5.1
アルミ階段枠	SPH-18	1829	12.4
	SPL-18N	1829	4.0
	ステップガード	SPH-18G	1800~1829
張出ブラケット	SPB-305K	305	2.3
	SPB-610K	610	3.1
張出方杖	SPB-H	1380	4.7
	SPG-4L	7316	30.7
	SPG-3L		25.7
	梁 杖	SPG-3L	5487
SPG-2		3658	22.3
TU-18K		1800~1829	5.8
TU-15K		1500~1524	5.0
兼用幅木	TU-12K	1200~1219	4.1
	TU-09K	900~914	3.3
	TU-06K	600~610	2.4
妻側幅木	TU-0619K	600~914	3.4
	TU-1215K	1200~1524	5.6
吊り金具	SPHB-1.0T		1.2

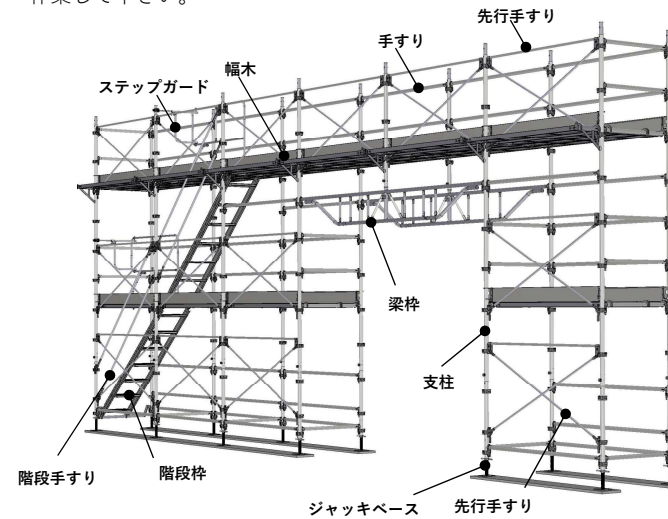
3 層目



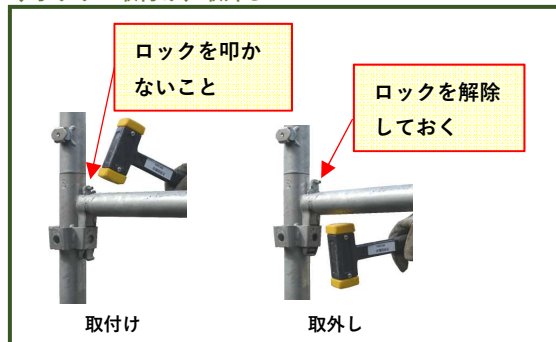
支柱の継足し
高さ2m以上の足場を組立て、解体、変更する際には墜落制止用器具を使用して下さい。
必要に応じて幅木を取付けます。



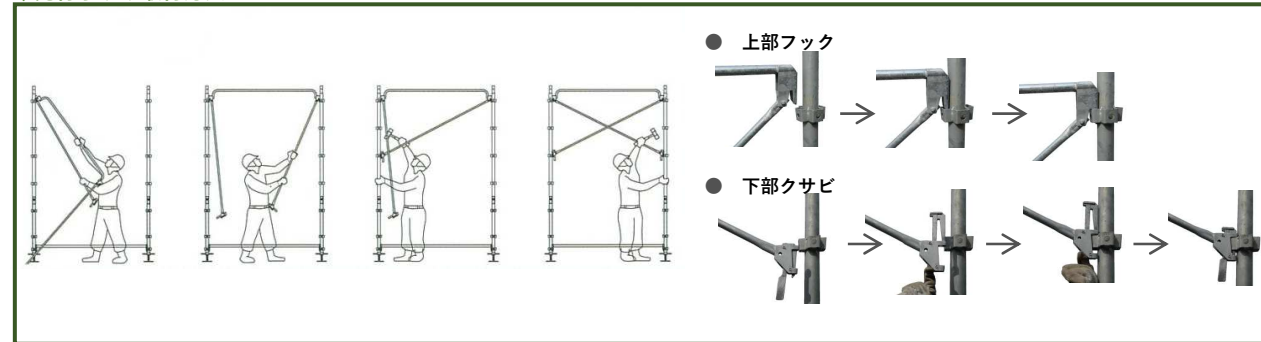
腕木・鋼製布板・先行手すり・階段枠の取付
以下、同様の手順で組み立てていきます



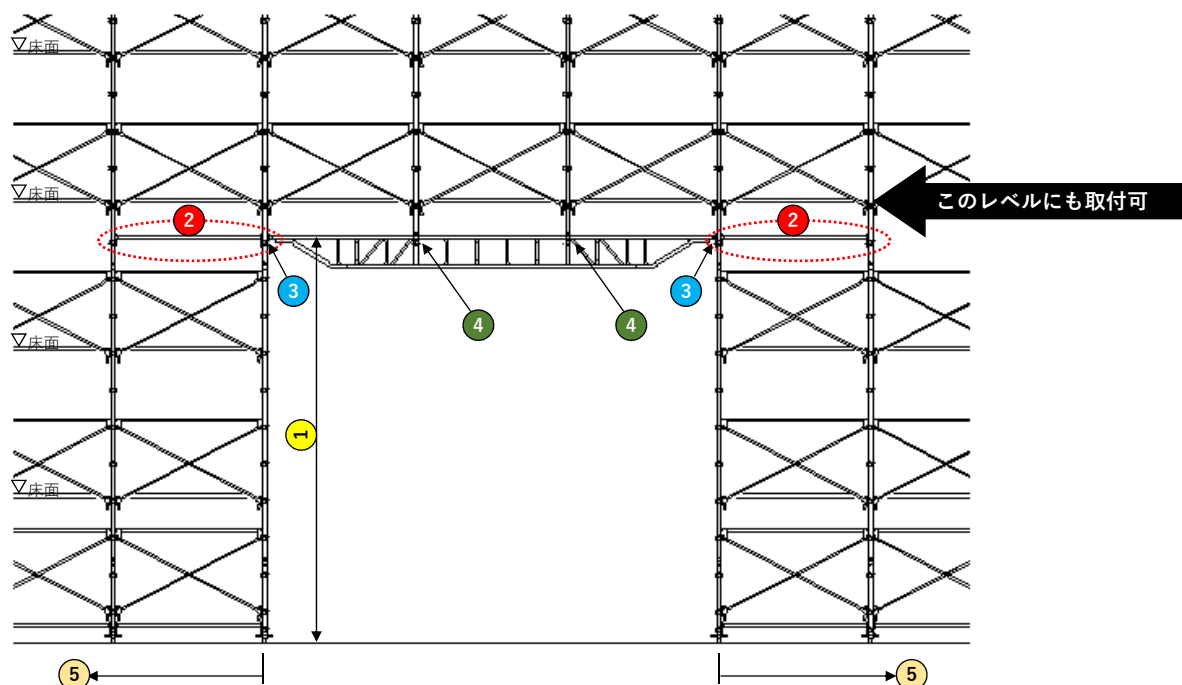
◆手すりの取付け、取外し



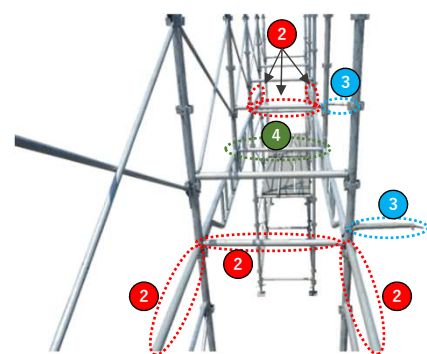
◆先行手すり取付方法



● 梁枠組立方法

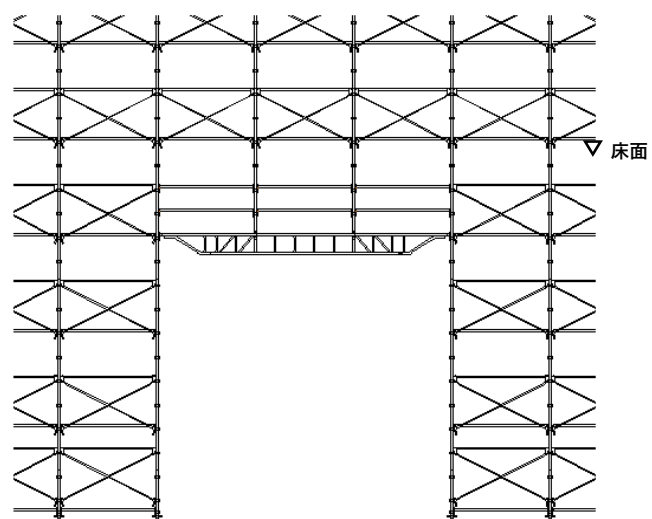


- ① 開口高さは3層以下で使用するこゝと。
- ② 梁枠支持部の外方1スパンには、布材を設けるこゝと。
また、梁枠支持部の梁間方向にも布材を設けるこゝと。
- ③ 梁枠支持部には、壁つなぎを設けるこゝと。
- ④ 2枚の梁枠間には、梁間方向に布材を設けるこゝと。
(4スパン用 3本、3スパン用2本、2スパン用1本)
- ⑤ 梁枠を支持する支柱から外方に1スパン以上足場を設けるこゝと。
- ⑥ 開口部を設ける場合、事前に強度計算を行い、足場の高さと安全性を確認するこゝと。

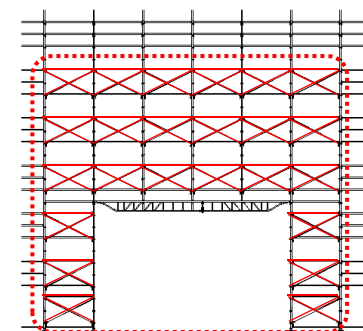


床面レベルに取付ける場合

* 床面レベルに取付ける場合は②の桁行方向の布材は不要となります。



4スパン梁枠の場合の注意点



梁枠上及び両サイド1スパンは、梁枠上3層まで表裏に先行手すりを設置するこゝと。

● 許容荷重

許容荷重

部材名	許容荷重	備考
支柱 梁間方向 W1210mmの場合	12.5 kN/本	
支柱 梁間方向 W914、810mmの場合	13.0 kN/本	
張出ブラケット L=305mm	8.0 kN/本	中央部
張出ブラケット L=810mm	4.5 kN/本	中央部
方杖	3.4kN/本	
先行手すり	3.0 kN/本	許容水平抵抗力
4スパン用梁枠	27.0 kN/本	
4スパン用梁枠上の支柱	9.0 kN/本	
3スパン用梁枠	18.0 kN/本	
3スパン用梁枠	9.0 kN/本	
2スパン用梁枠	11.4 kN/本	
2スパン用梁枠	11.4 kN/本	

積載荷重

① 作業床の最大積載荷重は、次表に示した値以下とすること。

梁間方向の支柱間隔	1層1スパンの積載荷重	1スパンの積載荷重合計(同時2層)
400mm以上914mm未満	250 kg	500 kg
914mm以上	連続スパン載荷の場合	250 kg
	1スパンおき載荷の場合	400 kg
		800 kg

- ② 最大積載荷重は、床付き布枠の許容積載荷重を超えないこゝと。
- ③ 梁枠で構成された開口部上方の足場の全積載荷重は800kg以下とすること。
- ④ 1スパンの間の最大の積載は同時2層までとすること。
- ⑤ 足場には最大積載荷重を表示するこゝと。

● 使用基準

使用基準

- (1) 部材の一時的取外し
作業のためにやむを得ず一部の部材を一時的に取り外すときは、取り外した状態における足場の強度が著しく低下しないことを確認するとともに、当該作業が完了した後は、直ちに現状に復すること
- (2) くさび緊結式足場用先行手すり
くさび緊結式足場用先行手すりの使用は次によるこゝと。
① 足場組立て及び解体時において、最上段に設置された先行手すりは、荷取り作業時においても取り外さない。
② 足場の組立て又は解体作業が行われている足場最上層においては、先行手すりに安全帯を取付けて作業する。
③ 安全帯取付け設備として使用する場合は以下による。
a. 安全フックは、先行手すりに掛け、1本に1人の使用とする。
b. 作業床から地面又は衝突のおそれのある機械設備等までの垂直距離が2層以上で使用する
- (3) 最大積載荷重
足場には、見やすいところに最大積載荷重を表示するこゝと。
- (4) 点検
足場は、労働安全衛生規則第567条に従って、各々の立場で適正な時期・内容で点検を行うこゝと。

足場組立基準

全体

- ① 本足場の組立は、指定された部材を使用し、以下によること。
- ② 本足場の組立高さ(最上層の床までの高さ)は原則として下表によること。

構成	組立最高高さ
梁間方向 1219mm	21層(38.0m)
梁間方向 914mm	24層(45.0m)

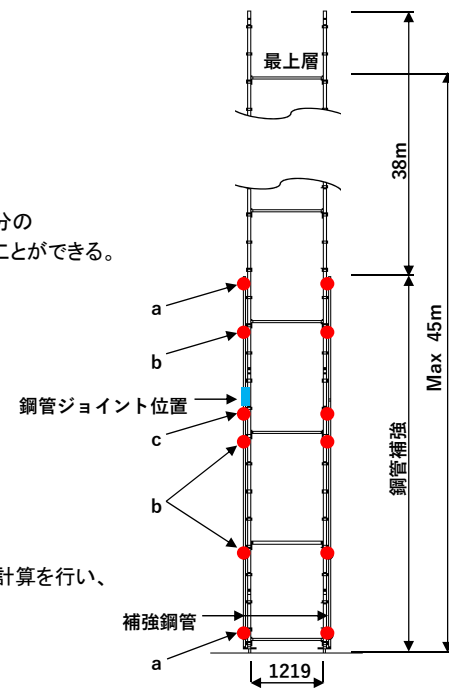
- ③ ただし、梁間方向1219mmの場合において、支柱の最高部から測って上表の高さを超える部分の支柱を鋼管の2本組構造として以下に示す方法で補強した場合においては、45m以下とすることができる。

- 1) 緊結金具は自在型を使用すること。
- 2) 鋼管は足場用鋼管を使用すること。
- 3) 緊結金具の固定位置は以下によること。

(右図参照)

- a. 鋼管の上端及び下端。
- b. 各層の腕木の位置付近。
- c. 鋼管ジョイントの位置付近。

- ④ 積載荷重が1スパン間の最大荷重を下回る場合においては、実際の組立条件に応じた強度計算を行い、その安定性を確認すること。



基礎

足場の基礎(地盤等)は、十分な支持力を有するものとする。

足場の脚部

- ① 支柱の下端にはジャッキベースを用い、これを敷板等不等沈下しない堅固なものの上に設け、2本以上の釘等により固定する。
- ② ジャッキベースの繰り出し長は、500mm以下とする。
- ③ 組立後及び使用中は、支柱がジャッキベースから浮いてないか確認すること。
- ④ 桁行方向、梁間方向それぞれに根がらみを設けること。但し、ジャッキベースを敷板等に固定する場合には、桁行方向の根がらみを省略してもよい。
- ⑤ 根がらみは、できる限り地面から近い位置に設置し、各緊結部付支柱に緊結する。

支柱の組立

- ① 支柱の間隔は、桁行方向 1829mm 以下、梁間方向 1219mm 以下とする。
- ② 支柱のジョイント部は、ジョイントピンにより確実にロック(抜け止め)を施し、確認すること。

SPシステム専用先行手すりの取付

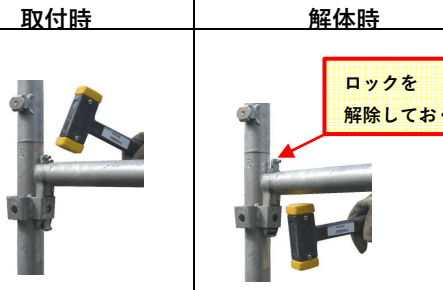
足場の後踏み側構面には、全層全スパンにSPシステム専用先行手すりを設けること。また、前踏み側構面には布材等を使用して二段手すりを設けること。

布材及び床付き布わくの取付

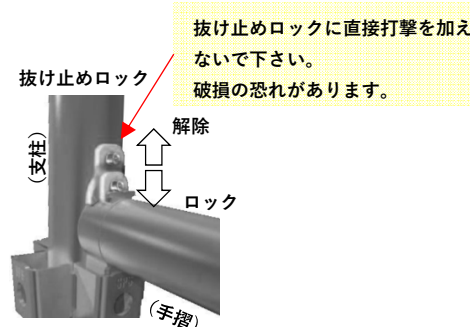
- ① 布材及び床付き布板は、高さ 1.8m 以下毎に設けること。
- ② 布材のクサビは、支柱のコマに差し込み、ハンマー等で確実に打ち込むこと。解体時は、抜け止めロックを持ち上げ、ハンマー等で叩き上げること。なお、以下については注意すること。
- ③ 床付き布板は、梁間間隔に合うように1枚又は複数枚敷き並べること。
- ④ 床付き布板のつかみ金具が、確実にロックされているか確認すること。
- ⑤ 地上第一の布は、地上から 2.0m 以下の高さに設けること。

壁つなぎの取付

- ① 壁つなぎは、垂直方向 5.0m 以下、水平方向 5.5m 以下の間隔で設けること。
- ② 壁つなぎの建物側への取付けは、柱、梁等の堅固箇所とし、足場側への取付けは腕木材(布材)付近の支柱に設けること。
- ③ 壁つなぎは、壁つなぎ用金具(認定品)を用いること。尚、壁つなぎ用金具が使用できず、壁つなぎとして鋼管、鉄骨用クランプ等を用いる場合は、鋼管に捨てクランプ等を取付ける等、滑りを生じない措置を施すこと。
- ④ 足場にシート、パネル等を設置した場合、風の影響が大きくなるので、壁つなぎの間隔を強度計算で算出し、安全を確認したうえで設けること。



* 抜け止めロックはたたかないこと。

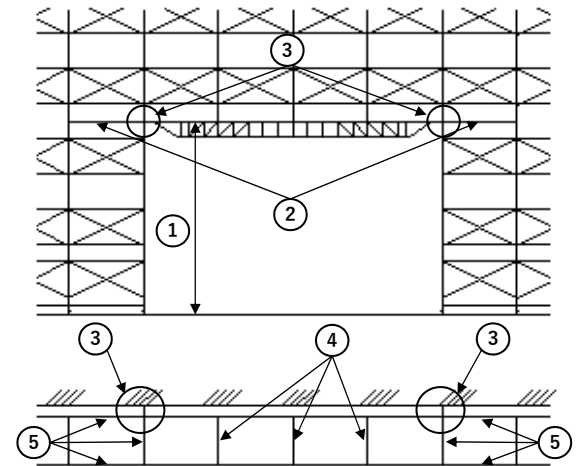


ブラケットの取付

- ① ブラケットは、布材(腕木材)付近の支柱材に設けること。
- ② ブラケットのクサビは、支柱のコマに差し込み、確実に打ち込み、ロック(抜け止め)を施し確認すること。
- ③ ブラケットに床付き布わくを取付ける場合は、床付き布わくのつかみ金具に付属されているロック(落下錠)が正常に機能しているか確認すること。
- ④ ブラケットに足場板を取付ける場合には、ブラケットと足場板の交点を番線等にて確実に固定すること。

開口部について

- ① 開口部高さは3層以内で使用すること。
- ② 梁枠支持部の外方1スパンには、布材を設けること。また、梁枠支持部の梁間方向にも布材を設けること。
- ③ 梁枠支持部には、壁つなぎを設けること。
- ④ 2枚の梁枠間には、梁間方向に布材を設けること。(4スパン用:3本、3スパン用:2本、2スパン用:1本)
- ⑤ 梁枠を支持する支柱から外方に1スパン以上設けること。
- ⑥ 事前に強度計算を行い、安全性を確認すること。



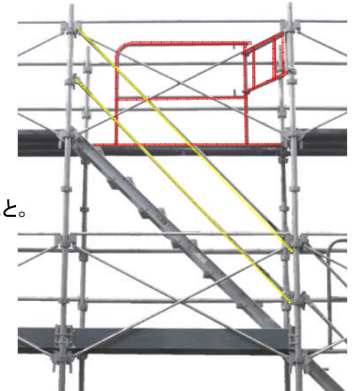
筋かい

足場の後踏み側の構面には筋かい等とし、次に示す設備のいずれかを全層全スパンにわたって設置すること。

- ① 大筋かいは足場用鋼管を使用して8層8スパン毎に交差2方向に設置する。その傾きは水平に対し概ね45°とし、足場用鋼管は緊結金具を使用して支柱に取付ける。

昇降階段について

- ① 足場には昇降階段を設け、2層以下毎に踊り場を設けること。
- ② 階段には労働安全衛生規則に基づき、手すり及び中さんを設けること。
- ③ 階段開口部には、階段開口部手すり枠を設けること。



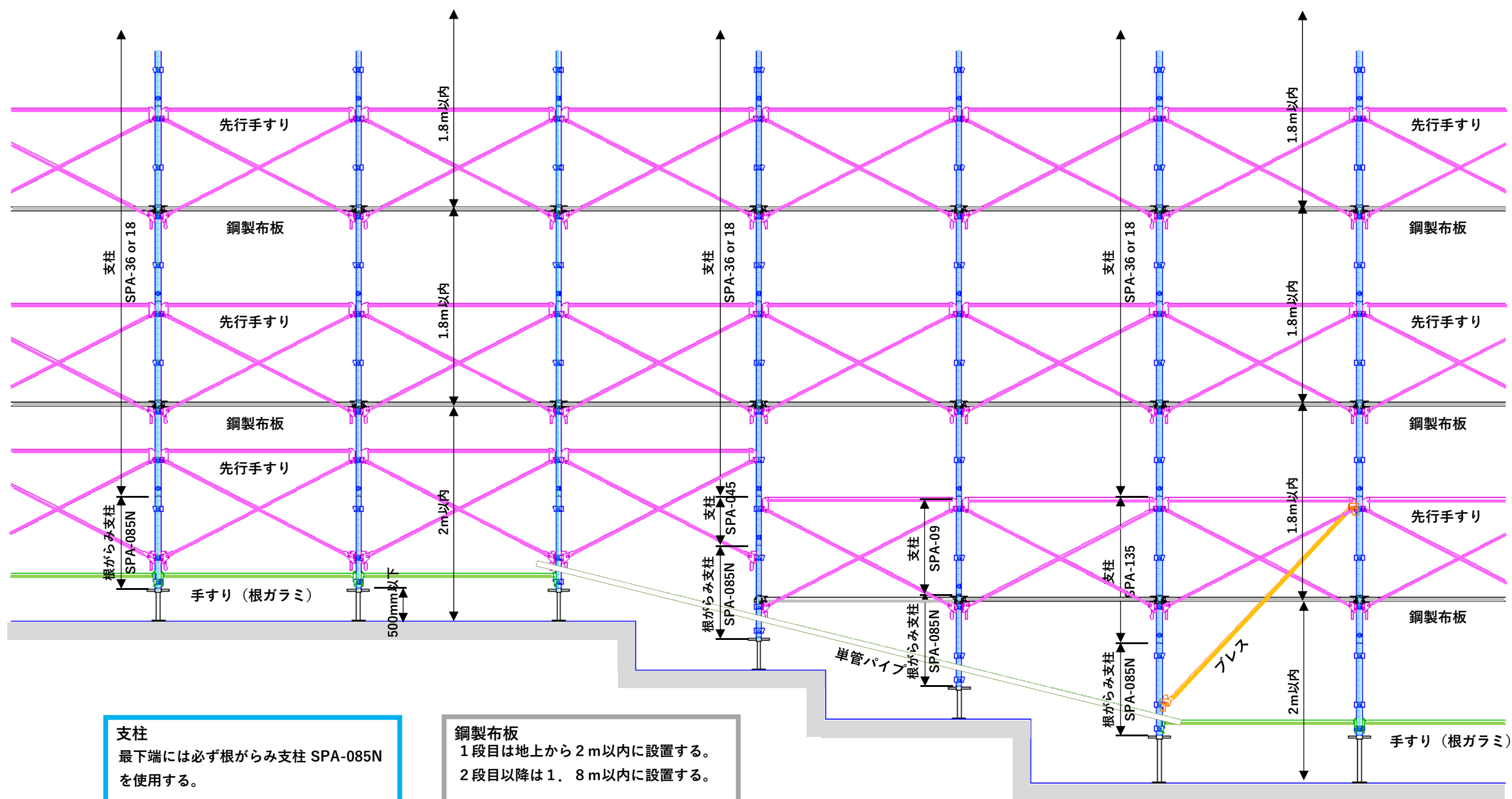
落下防護について

- ① 後踏み側には、メッシュシートまたは高さ10cm以上の幅木を設けるか、これらと同等以上の措置を講ずること。
- ② 前踏み側には、高さ10cm以上の幅木を設けるか、これらと同等以上の措置を講ずること。
- ③ 妻側には、メッシュシートまたは高さ10cm以上の幅木を設けるか、これらと同等以上の措置を講ずること。

壁落防護について

- ① 後踏み側には、SPシステム専用先行手すりを設けること。
 - ② 前踏み側には、布材による2段手すりを設けるか、これらと同等以上の措置を講ずること。
 - ③ 妻側には、布材による2段手すりを設けるか、これらと同等以上の措置を講ずること。
- * 2段手すり... 上さん:高さ 90cm 中さん:高さ 45cm





支柱
 最下端には必ず根がらみ支柱 SPA-085N
 を使用する。

鋼製布板
 1 段目は地上から 2 m 以内に設置する。
 2 段目以降は 1. 8 m 以内に設置する。

根ガラミ
 手すり材を用い、できる限り地面に近い
 位置に設ける。桁行、桁間両方向に設け
 る。
 段差、斜面部分で手すり材が取付できな
 い場合は、単管パイプでつなぎを設ける。

先行手すり
 後踏み側（外側）構面には、全層全スバ
 ンに専用先行手すりを設ける。
 前踏み側（躯体側）構面には手すり材等
 を使用し、2 段手すりを設ける。

プレス
 3 スパンに 1 ヶ所以上設置する
 1800 以上の支柱が使える場合には全スバ
 ンに先行手すりを設置する。